

第49回「おかねの作文」コンクール

ストップ^{ファイブ}5

長野県・駒ヶ根市立赤穂中学校 3年 渡邊 成美

私の家には、買い物をする前に自分の心に訴える「ストップ^{ファイブ}5」というものがあります。「ストップ5」とは、家族みんなで決めた我が家の買い物ルールです。私は、今日までお小遣いというものをもらったことがありません。中学生になり、私の身の周りの友達の中では、お小遣いをもっている人もいて、「何で家^{うち}だけお小遣いをくれないの?」「お手伝いするから頂戴^{ちやうだい}。」と言ったこともありました。しかし、母からお金の大切さをもう一度家族で考えてみようかと言われ、「ストップ5」を考えました。

第一に、買いたい物が今どうしても必要な物であるかということです。何となく必要と感じていたり、あとで使うと思うからという考えでは、いつまでたっても使わない無駄な物になってしまうことが多いと思います。無駄な物は極力買わないという考えがお金を大切にすることにもつながると考えます。

第二に、その物は、何年たっても飽きずに大切にできる物かということです。母は衣服や鞆、身の周りのほとんどの物を10年、20年先までおばあちゃんになっても使える物かとずっと先のことまで考えて買い物をします。私達家族は、そんな母の物を大切にできるという所を尊敬し、それを見習ってルールとしています。

第三に、その物を捨てる時はどのような時かと考えることです。どんなに大切に扱っていても、物にも人間と同じように寿命があります。そんな時はどのような時か。服だったら色あせてしまった時。自分の体に合わなくなってしまった時。鞆だったら取手がとれそうになってしまった時。たくさんありますが、少なくとも我が家のルールとしては使えなくなるまで大切に使う。ということです。物を大切に扱うというのは、お金を大切にすることにもつながると思います。また、そのような気持ちをもてるよう、日頃から物を大切にしていきたいです。

第四に、「何で欲しいの？」と問いただされた時、すぐに理由を答えられるかということです。どんなに欲しいと思っても、すぐに「こういう理由だから。」と答えられない物は本当にこれから先大切にしていける物とは言えないからです。以前、母が私に「これを買った時、将来、捨てようと思う物の中に入らない？」と聞いたことがありました。その言葉が忘れられず、改めて本当に欲しい物だけを買う。そんなお金の使い方をしなければならぬと考えさせられました。

第五に、買ってもらった後、家族の^{ため}為に汗を流しながら稼いでくれている両親に感謝しありがとうを伝えるということです。これは私がどうしても大切にしていきたいと思い、入れてもらったルールです。おそらく多くの方は、欲しい物が手に入ると、うれしくて目の前が見えず、つい感謝の気持ちを言葉にするということを忘れがちだと思います。しかし、お金があるからこそ欲しい物が手に入ります。そのお金を手に入れる為、一生懸命働いてくれる両親がいるからこそ、今の何一つ不自由のない生活ができています。そのことを私達子供は決して忘れてはならないと思います。

しかし、こうした「ストップ5」というルールを家族の中で決めてあっても、やはりいざお金を上手に扱うとなると、とても難しいです。私が考える活きたお金の使い方とは、今必要であるか、何年たっても飽きずに大切にできる物であるか、捨てる時はどのような時か、理由を聞かれてすぐに答えられるか、そして一番大切にしたい「ありがとう。」を伝えられるか、ということだと思います。またこのようなルールだけに縛られるのではなくまずは自分自身とよく向き合い、人に流されることなく自分でお金を大切に扱うことのできる大人になりたいです。これからの生活の中で、お金と正しく関わり、色々な視点から見ていけるようにしたいと思います。お金は使い方しだいでは、人生が大きく左右されてしまうこともあります。そのような部分も改めて感じることでできる良い機会となりました。私にお金について真剣に教え、一緒になって考えてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも人に感謝できる人になれるよう、正しいお金の使い方をし、日々の生活を一步一步前進していけるようになりたいと思いました。